

日本・セネガル職業訓練センターで、コンゴ民主共和国の指導員を育成

1984年に日本の援助で設立された日本・セネガル職業訓練センター(CFPT)は、JICAの支援のもと、セネガルの技術者育成だけでなく、第三国研修としてフランス語圏アフリカ諸国から多くの研修員を受け入れています。

紛争から復興に向かうコンゴ民主共和国に対しても、JICAは国立職業訓練校(INPP)の指導員の能力強化の一環として、CFPTとの相互協力による第三国研修を実施しました。

JICAは、1980年代からINPPに対して、主に電気・電子、自動車整備、冷凍技術などの技術者育成を支援してきました。しかし、1991年頃から国内紛争が広がったため協力は中断していました。2000年代に入って和平が進んだことを受けて、2010年から産業開発を担う人材育成に

つながる職業訓練プログラムを実施しています。

このプログラムの中にINPPキンシャサ校の指導員の能力強化を目指す技術協力プロジェクトがあり、基礎技術、専門技術(自動車学科、冷凍・空調学科)、指導法の強化により、訓練指導の向上・改

善を図ります。この活動の一環で、現地研修や日本での研修とともに、セネガルのCFPTとの相互協力による第三国研修とCFPTからの専門家派遣があります。

フランス語圏として経済・文化に共通性があるセネガルの協力により、効率的な技術移転だけでなく、アフリカの国同士の相互協力を通じて新たな国際交流が生まれることが期待されます。

なお、CFPTは、これまでに電子工学、電気技術、電子機械、自動車整備、および情報処理、自動工学の部門で約2,300名の中級・上級技術者を輩出しており、その約15%が国外留学生となっ

ています。2011年春には、1992年から校長を務めるウセイヌ・ゲイ氏が旭日双光章を受章しました。



ダカール市内の職業訓練センターで学生に加工機械の説明をする教員